

このコーナーでは、共同事業等に意欲的に取り組んでいる県内の組合事例をご紹介します！

事業の概要

補助事業名	組合研究集会			
対象組合等	勝浦奉仕会（協）			
	▼組合データ			
	理事長	岩瀬 洋男	住所	勝浦市墨名 657-2
	設立	平成 11 年 7 月 28 日	業種	小売業・飲食店中心の異業種
	組合員	30 名		
テーマ	組合での地域通貨導入の可能性			
担当部署	千葉県中小企業団体中央会 商業連携支援部 (Tel 043-306-3284)			
専門家	大塚マネジメント研究所 所長 大塚 慎二 (中小企業診断士)			

背景と目的

勝浦市は「さと海さと山」のま
ちとして、房総半島の一大観光地
の一角を担っている。有名な朝市
や勝浦漁港におけるカツオの水揚
げなど港町特有の雰囲気の中に温
かみの感じられるまちである。

最近では、「かつうらビッグひな
祭り」や勝浦名物「担々麺」など
話題性のあるイベントや「食」に
よるまちおこしで注目されている。

しかしながら、勝浦商業の現状
をみると、人口の減少傾向に歯止
めがかからない中で、事業者の高
齢化傾向が際立っている。一方、
周辺地区への大型店の進出が顕著
であり、勝浦市内中心部や興津地
区の商店街も空き店舗が目立つよ
うになってきた。

勝浦奉仕会協同組合は、勝浦地
区、興津地区を中心に、平成十一
年に事業者三十名で組織された協
同組合である。組合事業としては、
ポイントカード事業と商品券発行
に関する業務を行っており、組合
員店舗の販売促進と固定客の増大
を図っている。また、商工会等が
開催する納涼夜祭りやビッグひな
祭り協賛大売り出し等への「マイ

カード」による協賛ポイントの提
供やプレミアム商品券の回収など
を実施している。

このような事業を行うなかで、
地元の実業家として、勝浦市に住
む消費者の高齢化を間近に見るに
つけ、買物に対する利便性の提供
以外にも、地元住民の暮らしに役
立つ、コミュニティづくりができ
ないかを考えるようになった。こ
のため、岩瀬洋男理事長と役員
の方々の話し合いの中で、ポイン
トカードを活用した地域通貨の導
入手法について、研究会を二回に
わたって開催することになった。

事業の活動内容

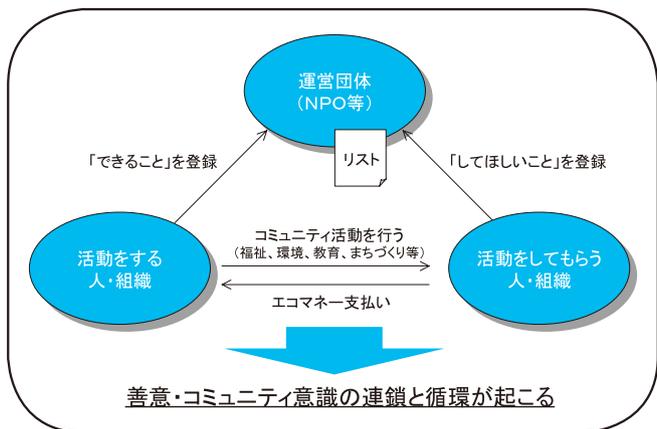
① 地域通貨の定義

地域通貨とは、「環境保全や福
祉など、通常の貨幣によって市場
価値の生みにくいサービスのやり
とりを地域の人々の発意により活
性化させるため、本来の通貨を補
完する形で、一定の地域に限って
発行されるもの」と定義されてい
る。

地域通貨には、カナダ発祥の L
E T S のように金銭的価値をもつ
た通貨の側面と社会・文化的側面
との二つの役割がある。地域通貨

の提唱者である通産省キャリアの
加藤敏春氏は、後者の役割をエコ
マネーとして提唱した。

地域経済が疲弊し、住民同士の
関係が希薄になる中で、独自の「通
貨」を触媒に日常生活のちよつと
したサービスをやりとりしながら、
人と人とのきずなや地域の活力を
取り戻し、まちづくりに活かそう
とする試みである。その仕組みは、
「私のできること」「私のしてほしい
こと」をサービスマネージャー表に
登録して、当事者同士で取引する
ことである。





(組合での地域通貨導入の可能性をテーマとした講習会の様子)

②エコマネーブームの到来

2002年には、北海道の栗山町で、地域通貨国際大会が開かれ全国的にも注目を集めることとなり、一種の地域通貨ブームが到来したのであった。

「くりやまエコマネー研究会」は当時、様々な仕組みの改革に取り組んでおり、その一つは、「知らない人には直接頼みにくい」との声を反映し、依頼者はコーディネートを通して提供者を探す「マッチングシステム」等を導入した。

③エコマネーの誤算

お金の換算できない福祉や文化などのサービスを地域社会の中で流通させるというエコマネーの理

念は、その仕組みにおいてかつての勢いを失いつつある。その理由

を考えてみると、日本には地域通貨導入以前から相互扶助の関係が活発であったことが挙げられる。農村には古くから「結(ゆい)い」

や「手間換え」と呼ばれる相互援助の制度があり、田植えや屋根のわらぶきなどに必要な人出を、各家が融通しあっていたのである。

また、「自分のことは自分でやる」という姿勢が染みついているので人にものを頼みづらい」という遠慮意識が根強く残っていることなども、その要因であろう。

④地域通貨を多様な還元メニュー

としてとらえることが必要

地域通貨を「社会・文化的側面(エコマネー)」として理想を追求し仕組みづくりを行うには、組合事業としてかなり高いハードルがある。そこで、次表の地域通貨と多様な還元メニューに見られるように、金銭的価値を持った側面をとらえ、柔軟な対応が必要になる。組合を通じて、商店街の振興といった本来の目的に結びつける方策を模索するべきであり、特にポイント事業においては、その具体的な活動が必要となる。

● 地域通貨と多様な還元メニュー

種類	活動	機能	当事者位置付け
マネー	地域でコミュニティビジネスを興し、マネーを循環させる	地域経済活性化	消費者 (Consumer)
ポイント・共通商品券	販促のための割引ポイントを発行したり、需要拡大のために共通商品券を導入する		貢献者 (Contributor)
ボランティア・ポイント コミュニティ・ウェイ	ボランティア活動を行った人に対してポイントを発行し、商品・サービスの割引として使えるようにする	コミュニティ形成力	創造者 (Creator)
エコポイント	商店街でのイベントの参加、買物袋持参によるごみ減量などの行為を行った人に対してポイントを発行し、商品・サービスの割引に使えるようにする		
エコマネーポイント	買物袋持参によるごみ減量、エコマーク商品の購入などの行為を行った人にポイントを発行し、一定程度のコミュニティサービスに交換できるようにする		
エコマネー	各種のコミュニティ活動と交換し(=相互扶助)エコマネーを循環させる		

事業の成果

講習会を通じ、岩瀬理事長をはじめ役員の方々からは組合事業を通じて、「これからは地域のために役立つことをしなければ」という地域貢献にかける熱い思いが感じられた。また、コミュニティを最終目的として地域通貨を導入したところは停滞しているため、まずポイントカード事業の中で何か出来るかを考え、実行に移すことが大切とのコンセンサスが得られた。

①各種具体的な成果として、

ポイントを支えるイベントボランティアに対し、協力した時間に応じたポイントを進呈しボランティア活動を支援する、②満点カードを利用した小・中学校、幼稚園、保育園対象の地域助成券の実施、の二点の実施にこぎつけたことは、広い意味での地域通貨による社会貢献と考えられる。

今後の事業展開・展望

今後の地域通貨の運用を図る上で、東京池袋本町の「きずなカード」が参考になる。このカードはNPO法人街づくりネットワーク(地元商店街有志で結成)、商店街、「おたすけクラブ」と協力し、高齢者ボランティア活動や、地域イベント等と絡めた新たなポイントカードとして再稼働させた。思いやりを込めた一枚のカード「きずな」を通し、まちづくりをすすめている。

勝浦奉仕会の「マイカード」も新たな地域通貨の仕組みを模索することで、これからも商店街の活性化とお年寄りや子供たちにやさしいコミュニティの構築を目指していきたい。

(中小企業診断士 大塚 慎二)